

## 家族関連語に対する連想反応と内的作業モデル

宮本 邦雄

Bowlby (1976; 1977; 1981) によって提唱された愛着理論は、乳児期の愛着対象 (attachment figure : 以下AF) との行動及び相互作用レベルの研究から、近年は表象レベルの研究へとその焦点を移してきている。すなわち、愛着に関する内的作業モデル (internal working model : 以下IWM) の概念によって、乳幼児期の愛着関係のみならず、青年期、成人期、老年期の対人関係をも視野に入れた愛着関係の生涯発達の解明が期待されているのである。

IWMは、乳幼児期の親を中心としたAFとの関係を通して形成され、その後の対人関係の比較的安定した照合的機能を果たすとされている。すなわち、乳児の愛着状態を測定するために考案されたストレンジシチュエーション法 (strange situation procedure : 以下SSP、Ainsworth, Blehar, Waters, & Wall, 1978) による愛着パターンから、AFによる適切な応答と一貫性のある養育を受けた乳児は、安定した愛着を形成し、AFを探索基地として利用するようになる (secure type : 安定型)。一方、AFへの接近や保護の要求に対して無視や拒否を受けると、AFの存在や行動に関する情報を回避するような不安定愛着を形成する (avoidant type : 回避型)。また、身体的接触を拒否されないものの、一貫性のない関わり方を受けた場合、AFに対して過度な愛着行動を示し、探索行動に移行できない不安定愛着 (ambivalent type : アンビ

バレント型) となる (Grossmann, Grossmann, Spangler, Suess, & Unzner, 1985; Ainsworth & Eichberg, 1991)。

以上のような行動レベルの特徴とともに、乳幼児はその表象レベルにおいても、それぞれに特徴的な対人的情報処理の作業モデルを形成していく。IWMとは、乳幼児期をこえて児童期以降にも持続していく表象、AFとの愛着関係の中で子どもに内在化される、自己及び他者に関する表象であり、人はこの表象を用いて外界からの刺激を選択的に取り入れ、解釈し、行動のプランを立てる (Bowlby, 1977; 1981; Main, Kaplan, & Cassidy, 1985)。乳幼児の愛着パターンに対応する、IWMの3つのパターンが考えられている。すなわち、他者—自己に関して安定したモデルをもっている安定型、他者と親しくなるのを回避する回避型、不安定でアンビバレントな表象をもつアンビバレント型が考えられ、青年を対象に種々の側面から検討が行われてきた (後述するように、成人の愛着パターンについて別の分類が行われるようになった)。精神分析学派と比較行動学そして認知科学の融合によって誕生した愛着理論であるが、対人的情報処理機構としてのIWMの構造については、詳細な検討がなされてこなかった。しかし近年、IWMの実体についての研究が望まれている (Koack & Aceery, 1988; 遠藤, 1992参照)。

佐藤 (1998) は、長期記憶内に貯蔵された

モデルを表象モデルと呼び、非言語的・感覚的レベルの表象システムと言語概念レベルの表象システムに区別した。前者は状況手掛かりによって自動的に活性化されるのに対し、後者は言語によるアクセスが可能であるとしている。IWMの内容と体制化の個人差は、個人が受けた対人関係の情緒的コミュニケーションの歴史に由来するという。愛着方略としては、安定型は愛着システムと探索システムのバランスがとれている1次方略をとるのに対し、回避型は愛着システムを不活性化する2次的方略を、またアンビバレント型は愛着システムを過活性化する2次的方略をとっている(佐藤, 1998)。すなわち、内的・外的脅威の存在する事態で、回避型は不快刺激手掛かりを無視し、愛着対象の必要性をなくそうとする。このタイプでは、感情レベルのシステムと言語レベルのシステムの分離が生じているとみられる。一方、アンビバレント型は不快刺激手掛かりに過敏に反応し、愛着対象のケアを強く求めようとする。

George, Kaplan, & Main (1985) によって開発された半構造化面接法 (AAI : adult attachment interview) によって、成人の愛着に関するIWMが査定されてきた。自律 (autonomous) は幼児の安定に、分離 (dismissing) は回避に、とらわれ (preoccupied) はアンビバレントに、そして未解決 (unsolved) は非体制化 (disorganised) に対応している (最近では、愛着のタイプは4類型がとられるようになってきた)。この方法は、自己の親子関係の回想が中心となっているが (Main, 1996)、その内容よりも陳述のまとまりや想起しやすさ (coherent and collaborative discourse) が判定の重要な基準となっている。

一方、特性としてIWMをとらえる立場から、質問紙法による測定法も考案されている (詫摩・戸田, 1988; 戸田, 1990)。この質問紙は、3つの愛着型に該当する対人関係様式を示す記述から一番当てはまるものを選ばせるという Hazan & Shaver (1987) の方法

に由来し、それらの記述を質問項目形式にしたものである。そこで測定されるのは個人がもつ対人関係の枠組み、自己や他者のあり方に関する表象であり、成人面接におけるIWMの概念の下位要素である可能性があると考えられている (山岸, 1997)。

近年の認知科学研究の展開に伴い、人間の情報処理機構に対するシステム論的アプローチがとられるようになったが、IWMについても、対人情報の処理機構としてのシステムの解明が求められている。本研究では、詫摩・戸田 (1988) の方法を用いてIWMを測定し、愛着に関連が深い家族関連語に対する連想反応を手がかりとして、IWMに関連する対人的情報処理様式を検討する。

言語連想検査は、検査者がいくつかの刺激語を提示し、それに対して被検者が一つの単語を答える検査である。かつてJung (1910) は、コンプレックスの分析方法として連想検査を用いた (河合, 1965)。刺激語 (100語) に対する連想における反応時間の遅滞や種々の障害をコンプレックス指標として、無意識の心的過程の研究を行ったのである。さらに近年はその短縮版として40語程度のテストも行われるようになり、その内容分析としては、カテゴリー化 (一般反応・特殊反応、名詞・動詞・形容詞など) が行われ、反応時間との関連が指摘されている。すなわち短時間反応では一般的反応が、長時間反応では特殊反応が多い傾向がある (寺崎・足利・豊田・東, 1996; 康, 1998)。

本研究では、IWMの特徴を検討することとともに、家族関連語についての意味的ネットワークを構成すると考えられる連想語の収集をも目的としているため、1) 反応語を名詞に限定する制限的方法、2) 複数反応を要求、3) 集団で施行、4) 書記反応を要求、さらに5) 愛着の歴史と関連が深い家族関連語 (父、母、きょうだい、赤ちゃん) を用いる、という点で以上の方法とは異なることになる。すなわち、「おとうさん、おかあさん、きょうだい、あかちゃん」などの家族関連語に対

する連想反応の質的・量的側面を分析し、特性としてのIWMとの関連を検討する。それを通して、情報処理機構としてのIWMの構造に関する基礎資料を得ることを目的とする。

ここで、以下のような仮説が設定された。

1) 愛着傾向の高い者は、両親に対してポジティブな表象を持ち、情動的な妨害も少ないと考えられるので連想反応は多く、内容も特殊的なものとなろう。

2) 回避傾向の高い者は、両親に対してネガティブな表象をもつことから、連想反応は少なく、内容はステレオタイプなものになるだろう。

3) アンビバレント傾向の高い者は、両親に対してポジティブな表象とネガティブな表象を持ち、葛藤が生じることにより、連想反応数は少ないが、内容としては個人に特殊的なものになるのではないだろうか。

## 方 法

被調査者：岐阜県のT女子大学学生、1年次学生87名が調査対象となった。IWM調査と連想調査は時期を別にして行われ、連想調査の有効回答者79名については連想反応の分析のみを行い、両者に参加した学生59名の資料に基づきIWMと連想反応の関連を分析した。

質問紙：①IWM質問紙：詫摩・戸田（1988）によって構成された18項目（3下位尺度安定、アンビバレント、回避それぞれ6項目からなる）の質問紙を用いて6件法による評定を求めた。②連想反応質問紙：家族関連語（おとうさん、おかあさん、きょうだい、あかちゃん）に対して、連想した事柄・事物の記述を求めた（所要時間30分間）。質問紙は、左欄に刺激語、その右に空欄を8個を配したもので、刺激語の順序を変えたもの4通りを用いた。指示は「左の欄に示す言葉から、連想する物をあげて下さい。時間は30分間です。」とした。調査時期と実施方法：IWM質問紙調査は1997年10月、連想反応調査は11月に、講義中に集団形式で実施した。

## 結 果

### 1. 家族関連語に対する連想反応の分析

まず各刺激語に対する頻出語を分析するため、以下のように同意語・類似語をまとめた。長電話・携帯・携帯電話、TVゲーム・ファミコン・ゲーム、ゴルフ・ゴルフクラブ、ヒゲ・ひげ剃り、本・本棚、スーツ・背広、掃除・掃除機、洗濯・洗濯機・洗濯物、野球・プロ野球、料理・炊事、台所・キッチン、化粧・化粧品、買い物・買い物袋、テレビ・テレビチャンネル、部屋・勉強部屋、ミルク・乳、おむつ・おしめ、小さい手・手、小さな靴下・靴下、小さな服・ベビー服。各刺激語に対して2回以上出現した連想反応を資料1に示した。

「おとうさん」に対する連想反応で2回以上出現したものは298語、1回のもの（単独語）は97語で、合計395語であった。頻出語は多い順に、車(37)、タバコ(31)、お酒(25)、スーツ・背広(14)、ネクタイ(14)、新聞(12)、ビール(12)、メガネ(11)、仕事(11)、ひげ・ひげ剃り(11)、会社(10)、ゴルフ（以下7～9）、釣り・釣り道具、野球・プロ野球、テレビとなった。

「おかあさん」に対しては2回以上のもの288語、単独語99語、合計387語であった。頻出語は、エプロン(34)、洗濯・洗濯機・洗濯物(29)、料理・炊事(22)、掃除・掃除機(18)、台所・キッチン(16)、車(11)、化粧・化粧品(11)、アイロン（以下6～7）、買い物・買い物袋、包丁、財布、パーマ、花となった。

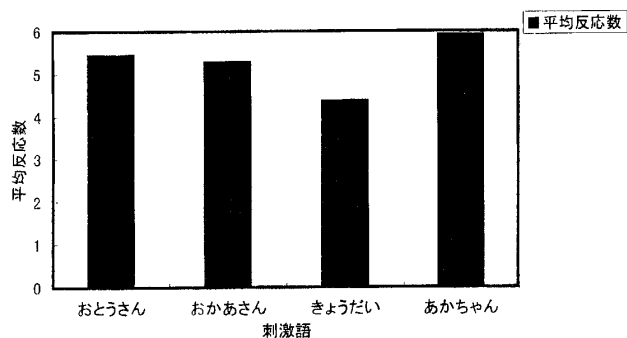


図1 各刺激語に対する平均連想反応数の比較

表1 IWM各因子合計得点と総連想語数の相関係数

刺激語	おとうさん	おかあさん	きょうだい	あかちゃん	合計
secure	0.22	0.09	0.05	0.23	0.18
avoidant	0.33*	0.31*	0.40*	0.27*	0.41**
ambivalent	0.00	0.50	0.06	0.07	0.60

\*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$

「きょうだい」に対しては2回以上のもの210語、単独語86語、合計296語となった。出現頻度順に、けんか(26)、テレビ・テレビチャンネル(15)、TVゲーム・ファミコン(12)、部屋・勉強部屋(12)、学校(10)、服(10)、自転車(10)、おもちゃ(10)、電話・長電話・携帯電話(以下6~8)、お下がり、CDとなった。

「あかちゃん」に対しては2回以上のもの359語と他と比べて多く、単独語が61語、合計420語であった。頻出語は、ミルク・乳(38)、おむつ・おしめ(33)、哺乳びん(29)、ガラガラ(27)、おしゃぶり(27)、よだれかけ(23)、おもちゃ(21)、ベビーベッド(19)、ベビーカー(16)、乳母車(12)、ぬいぐるみ(10)、小さい手・手(以下6~9)、小さな靴下・靴下、泣き声、小さな服・ベビー服、タオル、となった。

また、各刺激語に対する初出語は、頻出語とほぼ重複していた(資料1)。すなわち、6回以上初出語として出現したものを挙げると、「おとうさん」では、タバコ、車、お酒、「おかあさん」では、エプロン、料理・炊事、「きょうだい」で、けんか、おもちゃ、「あかちゃん」が、おしゃぶり、哺乳びん、ガラガラ、であった。

各刺激語に対する平均連想反応数を比較したところ、図1に示すように、分散分析の結果「きょうだい」に対する反応数が他と比べ有意に少ないことがわかった( $F=19.268$ ,  $df=3/213$ ,  $p < .001$ )。

一方、1度しか出現しなかった反応がどの刺激語に対して多かったかを調べてみると(図2)、「おとうさん」24.6%、「おかあさん」25.6%、「きょうだい」29.1%に対して、「あかちゃん」がもっとも少ない比率であった(17.0%、 $\chi^2=25.23$ ,  $df=3$ ,  $p < .001$ )。

## 2. IWMと連想反応の関連

まずIWMに関する18項目について主因子法(バリマックス回転)による因子分析を行った結果から、安定、回避、アンビバレント各因子を確認し合計得点を算出した。さらに、各因子の合計得点と各刺激語に対する総連想語数との積率相関係数を算出したところ、表1に示すように、回避因子と全ての刺激語において有意な正の相関(おとうさん .33、おかあさん .31、きょうだい .40、あかちゃん .27)が認められた。

さらに各因子合計得点の中央値を基に高群・低群に分け、各刺激語に対する連想反応数を

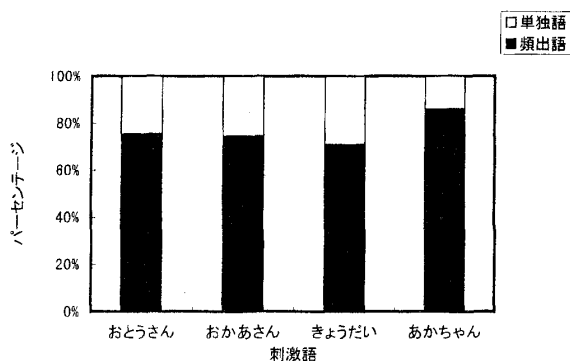


図2 家族関連語に対する連想反応の頻出語と単独語の割合(%)

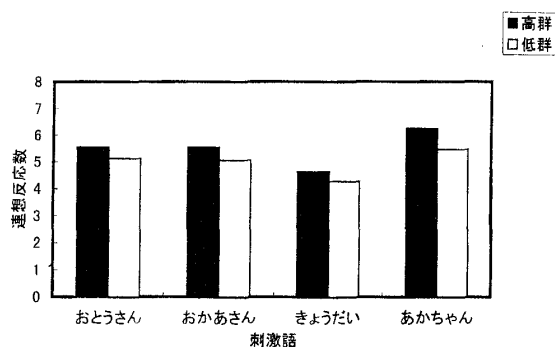


図3 各刺激語に対する連想反応数のsecure因子高低群間の比較

比較した (t検定)。安定因子については (図 3)、「あかちゃん」に対して高群の反応数が多い傾向がみられた ( $t=1.761$ ,  $df=60$ ,  $p<.10$ )。回避因子については図 4 に示すように、「おかあさん」に対して高群の反応数が有意に多く ( $t=2.309$ ,  $df=60$ ,  $p<.05$ )、「おとうさん、きょうだい」に対しては、高群が多い傾向が認められた ( $t=1.972$ ,  $df=60$ ,  $p<.10$ ,  $t=1.707$ ,  $df=55$ ,  $p<.10$ )。一方、アンビバレント因子についてはいずれの刺激語に対しても高低群間に有意な傾向はみられなかった (図 5)。

また、1 度しか出現しなかった連想語 (単独語) について、各因子別に高低群間で各刺激語毎に比率を求め  $\chi^2$  検定を行った。その結果、安定因子については (図 6)、「あかちゃん」に対して高群が有意に高く ( $\chi^2=3.76$ ,  $p<.01$ )、「おとうさん」に対して高群が高い傾向を示した ( $p<.10$ )。さらに回避因子では図 7 に示すように各刺激語に対する高群の比

率が高く、「おとうさん」に対する単独語が有意に多いことがわかった ( $\chi^2=12.93$ ,  $p<.001$ )。一方アンビバレント因子については (図 8)、「きょうだい」についてのみが有意に高い比率を示した。

最後に、連想反応の内容と IWM の関連を検討するため、各因子の高低群間で、頻出語の内容を比較した (資料 2)。6 回以上の頻出語について  $\chi^2$  検定を行ったところ、3 因子ともに各刺激語に対する反応パターンには有意な差は認められなかった。

## 考 察

まず、IWM と連想反応の関連について、量的側面を検討するために、各因子の合計得点と各刺激語に対する総連想語数との相関係数を算出したところ、回避因子と全ての刺激語において有意な正の相関が認められた。すなわち、回避傾向が強いほど、いずれの刺激語

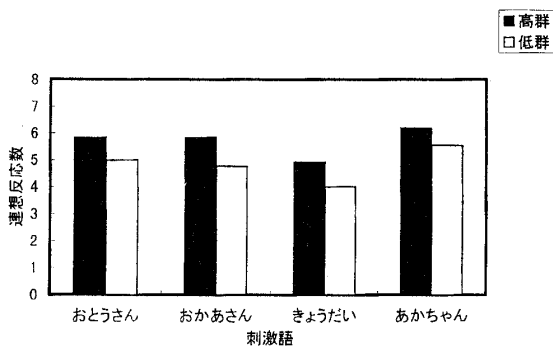


図 4 各刺激語に対する連想反応数のavoidant因子高低群間の比較

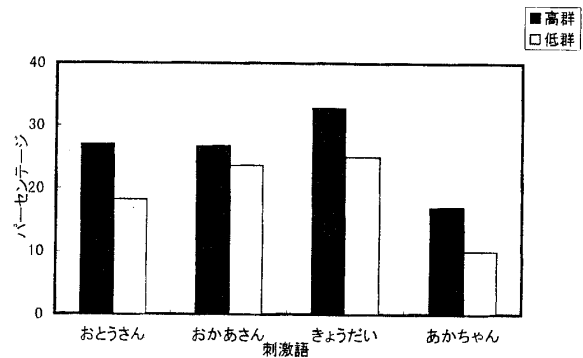


図 6 secure因子高低群による各刺激語に対する単独語の割合(%)

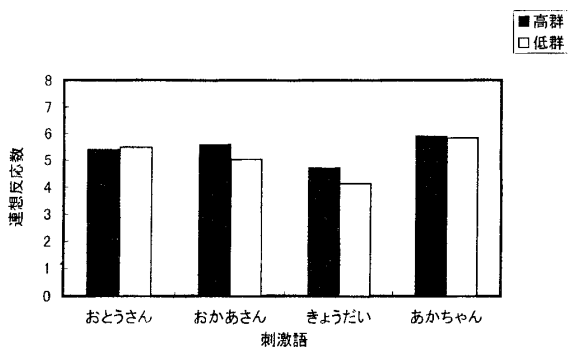


図 5 各刺激語に対する連想反応数のambivalent因子高低群間の比較

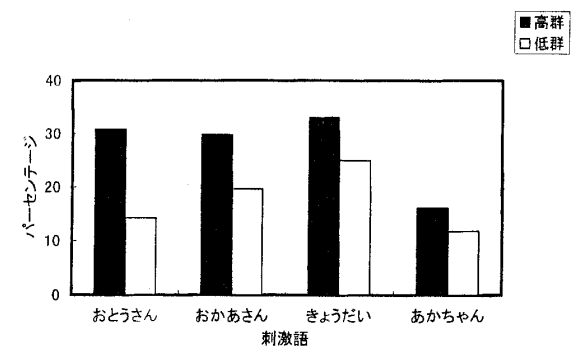


図 7 avoidant因子高低群による各刺激語に対する単独語の割合(%)

に対する連想反応も量的に高いレベルになることが示された。この結果をさらに確認するために、各因子高・低群間で連想反応数を比較したところ、回避因子については、「おかあさん、おとうさん、きょうだい」に対して、高群が多い傾向が認められた。一方、安定因子については、「あかちゃん」に対して高群の反応数が多い傾向がみられたものの、アンビバレント因子についてはいずれの刺激語に対しても高低群間に有意な傾向はみられなかった。

これらの結果は、回避傾向が強い場合には仮説2とは反対にむしろ連想反応が多くなることを示している。Bretherton(1995)によると、不活性方略を用いる回避型では、他者からの拒否を想起させる否定的側面の情報処理を抑制し、逆に理想化された側面の表象モデルが形成されている。愛着対象とともに自己は過度に理想化され(Cassidy, 1988)、緊急の事態でない限り、目標と関連がない情報は注意過程から除外されてしまうとされている。また佐藤(1998)は、このタイプは言語表象レベルによる概念システムと感覚運動システムの整合性・同調性が欠けており、前者が後者を抑制していること、過去の不幸な愛着体験を想起する場合でも、その感情が分離されることを指摘している。回避傾向が強い者の連想反応が多かったのは、感覚運動的レベルの表象と言語レベルの表象の分離によって、情動的な阻害的作用が比較的弱くなり、言語的レベルの表象によるエピソード記憶の検索

が容易になされたのかもしれない。

過活性化方略を採用するアンビバレント型は、不安を喚起する手がかりに選択的な注意バイアスを示す(佐藤, 1998)。不安状況に関連する表象群はわずかな手がかりにより自動的に活性化され、それに関連するエピソード記憶が想起される閾値は低下すると考えられる。してみるとアンビバレント高群の連想反応レベルは高まるはずであるが、この制限無しの自由連想事態では、そうしたネガティブな反応は意識的に抑制された可能性もある。

一方、安定傾向の強い場合にも、回避傾向ほど反応数が多くはならなかった。仮説1を支持しない結果であるが、これは被験者が大学一年生であり、親元から離れた状態にある者が多かったこと、家族関連語による情動喚起がアンビバレント高群と同様に強く、長期記憶へのアクセスが阻害されたのではないだろうか。

1度しか出現しなかった連想語(単独語)はステレオタイプな反応ではなく、個々の被験者のエピソード的な特殊的反応とも考えられる。そこで、各因子高低群間で各刺激語毎に単独語の比率を比較した。その結果、回避因子では各刺激語に対する高群の比率が高く、「おとうさん」に対する単独語が有意に多いことがわかった。この結果からも、父親に対する固有のエピソード記憶が検索されやすいことが示唆される。なお、安定因子については、「あかちゃん」に対して高群が有意に高いことが認められたが、これは母性準備性との正の相関を見いだした先行研究の結果と一致している(宮本, 1994; 1997)。アンビバレント因子については「きょうだい」に対してのみ有意に高いことが認められた。

一方、連想反応の内容については、各因子の高低群間で頻出語の内容を比較したところ、3因子ともに各刺激語に対する反応パターンには有意な差は認められなかった。

これらの質的レベルの分析からは、各因子に関連する特徴的な傾向は認められず、AAIでのカテゴリー化の基準は、その内容分析よ

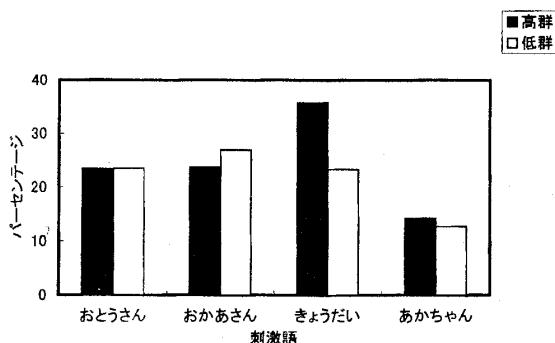


図8 ambivalent因子高低群による各刺激語に対する単独語の割合(%)

りもむしろ語りの凝集性や様式が重要となる (Main, 1996) こととも相通じる結果といえよう。

本研究ではIWMの情報処理機構の特徴についての手がかりとして連想法を用いたが、この方法について考察したい。まず本研究では、単一自由連想ではなく家族関連の4刺激語に対して30分間の連想語の産出を求めた。同様の方法によって、中島・山崎 (1992) は、活性化理論に基づく意味的ネットワークの構造や特性を明らかにするために、文脈提示後に「力」という刺激語に対して1分間の連続連想反応を求め、連想語産出に及ぼす文脈の効果を検討している。また、村上 (1985) は41語の刺激に対する各語1分間の連続自由再生に基づき、反応語数 (反応時間に対応) と反応語の個人間の重なりから被検査者の類型化を行った。我々の設定した全体で30分間という制限時間は、個々の連想反応に対する十分すぎるモニタリング及び内容の自己チェックを行わせた可能性がある。しかし、各刺激語に対する初出語は、頻出語とほぼ重複していたことから、初出語・頻出語を分析することで先行研究の結果と比較することができよう。

また、連想反応の質的分析に関しては、頻出語の群間比較のみであったが、有意な傾向はみられなかった。ただし先述のように、一般語・特殊語については、個人間で共通する頻出語と1度しか出現しなかった単独語の分析によって間接的にその傾向を知ることができる。単独語の割合は、「おとうさん、おかあさん、きょうだい」の25~30%に対して、「あかちゃん」が最も少なかった。これは、「おとうさん、おかあさん、きょうだい」では、本人を想定しているのに対して、「あかちゃん」は一般的なイメージに対する反応であり、ステレオタイプな反応として発現していると思われる。

寺島・足立・豊田・東 (1996) は、通常の言語連想検査法で42個の刺激語を用い、正常成人の反応語の出現頻度を調べているが、そ

の中に「父親、母親」の2語が含まれている。

「父親」に対する出現頻度2以上の連想反応は、頻度の高い順に「母親、厳しい、こわい、偉大、大きい、威厳、仕事、尊敬、おとうさん、頑固、偉い、やさしい」となっていた。また「母親」に対しては、「やさしい、父親、愛情、海、女、子供、偉大、大きい、強い、あたたかい」であった。すなわち、形容詞がそれぞれ4~5語含まれている。本研究では、事物の連想という制限を設けたために、形容詞は出現しなかったが、IWMとの関連では重要な情報を有しているとも考えられる。今後自由条件での検討が必要とされよう。

以上をまとめてみると、愛着経験と関連の深い刺激語である「父、母、きょうだい、赤ちゃん」に対する連想反応とIWMの安定傾向、回避傾向、アンビバレント傾向との関係を検討した結果、回避傾向が強いほど、家族関連語に対する連想反応数が多いことが認められた。これは、対人的情報処理の際に感情レベルの表象を抑制することにより、言語レベルでのエピソード記憶へのアクセスを促進することに生じたと考えられる。

## 註

- 1) 本研究の一部は日本心理学会第62回大会 (1998年10月、東京学芸大学) にて発表された。

## 引 用 文 献

- Ainsworth, M. D. S., Blehar, M.C., Waters, E., & Wall, S. (1978) *Patterns of attachment: A psychological study of the strange situation*. Hillsdale, NJ: Erlbaum.
- Ainsworth, M. D. S., & Eichberg, C. G. (1991) Effects of infant-mother attachment of mother's unresolved loss of attachment figure, or other traumatic experience. In C. M. Parkes, J. Stevenson-Hinde, & P. Marris (Eds.), *Attachment across the life cycle* (pp. 160-183). London and New York: Tavistock/Routledge.

- Bowlby, J. 1976 黒田実郎・大羽葵・岡田洋子 (訳) 母子関係の理論 I 愛着行動. 岩崎学術出版 (Bowlby, J. 1969 *Attachment and Loss*, vol. 1: *Attachment*. London: The Hogarth Press)
- Bowlby, J. 1977 黒田実郎・岡田洋子・吉田 恒子 (訳) 母子関係の理論II 分離不安. 岩崎学術出版 (Bowlby, J. 1973 *Attachment and Loss*, vol.2: *Separation*. London: The Hogarth Press)
- Bowlby, J. 1981 黒田実郎・吉田恒子・横浜恵三子 (訳) 母子関係の理論III 愛情喪失. 岩崎学術出版 (Bowlby, J. 1980 *Attachment and Loss*, vol. 3: *Loss*. London: The Hogarth Press)
- Bretherton, I. 1995 A communication perspective on attachment relationships and internal working models. In E. Waters, B. E. Vaughn, G. Posada, & Kondo-Ikemura (Eds.), *Care-giving, cultural, and cognitive perspectives on secure-base behavior and working models: New growing points of attachment theory and research. Monographs of the Society for Research in Child Development*, 60, 310-329.
- Cassidy, J. (1988) Child-mother attachment and the self in six-years olds. *Child Development*, 59, 121-134.
- 遠藤利彦 1992 愛着と表象—愛着研究の動向：内的作業モデル概念とそれをめぐる実証的研究の概観 心理学評論, 35, 201-233.
- George, C., Kaplan, N., & Main, M. 1996 *Adult Attachment Interview*, Unpublished protocol, Department of Psychology, University of California, Berkley.
- Grossmann, K., Grossmann, K. E., Spangler, G., Suess, G., & Unzner, L. 1985 Maternal sensitivity and newborns' orientation responses as related to quality of attachment in Northern Germany. In Bretherton & E. Waters (Eds.), *Growing points in attachment theory and research* (pp.233-256). *Monographs of the Society for Research in Child Development*, 50 (1-2, Serial No.209).
- Hazan, C., & Shaver, P. (1987) Romantic love conceptualized as an attachment process. *Journal of Personality and Social Psychology*, 52, 511-524.
- Jung, C. G. 1910 The association method. *American Journal of Psychology*, 21, 219-269. (河合, 1965に引用)
- 康 智善 1998 刺激—反応間の概念的距離の次元からみた連想スタイルの分析—非制限指示下における言語連想検査とロールシャッハ・テストとの関連から— 教育心理学研究, 46, 317-325.
- 河合隼雄 1965 ユング心理学入門 培風館
- Kobak, R. R., & Aceery, A. 1988 Attachment in late adolescence: Working models, affect regulation and representations of self and others. *Child Development*, 59, 135-146.
- Main, M. 1996 Introduction to the special section on attachment and Psychopathology: 2. Overview of the field of attachment. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 64, 237-243.
- Main, M., Kaplan, N., & Cassidy, J. 1985 Security in infancy, childhood, and adulthood: A move to the level of representation. In Bretherton & E. Waters (Eds.), *Growing points in attachment theory and research* (pp.233-256). *Monographs of the Society for Research in Child Development*, 50 (1-2, Serial No.209).
- 宮本邦雄 1994 女子青年の母性準備性と内的作業モデル 日本発達心理学会第5回大会発表論文集, 279.
- 宮本邦雄 1997 女子青年の母性準備性と内的作業モデル—高校生、大学生、看護専攻学生の比較— 日本発達心理学会第8回大会発表論文集, 217.
- 村上宣寛 1982 語連想における被験者タイプと、反応スタイル、MMPIとWAISの下位尺度との関連について. 心理学研究, 53, 23-30.
- 中島義明・山崎晃男 1992 連想語産出に及ぼす文脈と年齢の効果から見た意味的ネットワークの構造と発達 大阪大学人間科学部紀要, 18, 137-160.
- 佐藤 徳 1998 内的作業モデルと防衛的情報処理 心理学評論, 41, 30-56.
- 詫摩武俊・戸田弘二 1988 愛着理論からみた青年の対人態度—成人版愛着スタイル尺度作成の試み— 東京都立大学人文学報, 196, 1-16.
- 寺嶋繁典・足利 学・豊田勝弘・東 英雄 (1996) 言語連想検査における正常成人の反応 関西大学社会学部紀要, 28, 141-160.
- 戸田弘二 1990 女子青年における親の養育態度の認知とInternal Working Modelsの関連 北海道教育大学紀要 (第1部C) 41, 91-99.



山岸明子 1997 青年後期から成人期初期の内的作業  
モデル：縦断的研究. 発達心理学研究、8, 206-217.

資料1 家族関連語に対する連想反応

Ss	おとうさん	おかあさん	きょうだい	あかちゃん				
1	車	37	エプロン	34	けんか	26	ミルク・乳	38
2	タバコ	31	洗濯・洗濯機他	29	テレビ・他	15	おむつ・おしめ	33
3	お酒	25	料理・炊事	22	TVゲーム・他	12	哺乳びん	29
4	スーツ・背広	14	掃除・掃除機	18	部屋・勉強部屋	12	ガラガラ	27
5	ネクタイ	14	台所・キッチン	16	学校	10	おしゃぶり	27
6	新聞	12	車	11	服	10	よだれかけ	23
7	ビール	12	化粧・化粧品	11	自転車	10	おもちゃ	21
8	メガネ	11	アイロン	7	おもちゃ	10	ベビーベッド	19
9	仕事	11	買い物・他	7	電話・携帯・他	8	ベビーカー	16
10	ひげ・ひげ剃り	11	包丁	6	お下がり	7	乳母車	12
11	会社	10	財布	6	CD	6	ぬいぐるみ	10
12	ゴルフ	9	パーマ	6	机	5	小さい手・手	9
13	釣り・釣り道具	8	花	6	お菓子	5	小さな靴下・靴下	7
14	野球・プロ野球	8	お弁当	5	お揃いの服	5	泣き声	7
15	テレビ	7	ネコ	5	車	4	小さな服・他	6
16	本	5	ミシン	5	本	4	タオル	6
17	電車	4	スーパー	5	妹	4	ゆりかご	5
18	カバン	4	自転車	5	マンガ	4	お母さん	5
19	電話	4	なべ	4	制服	4	小さい靴・靴	5
20	ももひき	4	ご飯	4	野球	3	よだれ	5
21	机	4	笑顔	4	パソコン	3	離乳食	5
22	男・男性	3	家計簿	4	ベル・ポケベル	3	おまる	3
23	作業服	3	冷蔵庫	4	メガネ	3	人形	3
24	帽子	3	メガネ	4	おやつ	3	マシュマロ	3
25	お腹	3	スーツ	4	音楽	2	もみじ	3
26	トイレ	3	電話	4	勉強	2	おっぱい	3
27	カメラ	3	本	3	靴	2	帽子	3
28	コーヒー	3	女	3	帽子	2	毛布	3
29	シャツ・他	2	バッグ	3	兄	2	布団	3
30	パチンコ	2	スリッパ	3	旅行	2	笑顔	3
31	ライター	2	編み物	3	ままごと	2	ひなたぼっこ	3
32	タオル	2	指輪	3	ビデオ	2	タマゴボーロ	2
33	病院	2	ダンス	2	雑誌	2	散歩	2
34	犬	2	食事	2	プリクラ	2	はいはい	2
35	お金	2	洋服	2	カバン	2	アルバム	2
36	いびき	2	野菜	2	写真	2	積み木	2
37	手帳	2	犬	2	顔	2	産毛	2
38	日曜日	2	煮物	2	買い物	2	お風呂	2
39	お母さん	2	家事	2	姉	2		
40	灰皿	2	目覚まし時計	2	おこづかい	2		
41	写真	2	裁縫	2	バスケット	2		
42	風呂	2	仕事	2				
43	ビデオ	2	カバン	2				
44	名刺	2	布団	2				
45			お菓子	2				
47			ロングスカート	2				
48			食器	2				
49			鏡	2				
50			洗剤	2				
小計	2回以上出現	298	288	210	359			
小計	1回出現	97	99	86	61			
総計		395	387	296	420			

## 資料 2 家族関連語に対する連想反応

secure												
Ss	おとうさん	高群	低群	おかあさん	高群	低群	きょうだい	高群	低群	あかちゃん	高群	低群
1 車		13	17	エプロン	13	14	けんか	13	10	ミルク・乳	15	16
2 タバコ		14	15	洗濯・他	12	13	テレビ・他	6	7	おむつ・他	15	14
3 お酒		12	12	料理・炊事	10	10	TVゲーム他	7	5	哺乳びん	9	16
4 スーツ・他		4	7	掃除・他	6	9	部屋・他	3	6	ガラガラ	10	10
5 ネクタイ		6	7	台所・他	6	6	学校	4	4	おしゃぶり	9	12
6 新聞		4	7	車	5	6	服	5	4	よだれかけ	11	9
7 ビール		6	5	化粧・他	5	4	自転車	3	7	おもちゃ	13	6
8 メガネ		7	4	アイロン	1	5	おもちゃ	3	5	ベビーベッド	10	6
9 仕事		4	7	買い物・他	4	2	電話・他	5	3	ベビーカー	6	8
10 ひげ・他		8	2	包丁	4	2	お下がり	3	2	乳母車	4	4
11 会社		4	3	財布	2	2	CD	3	2	ぬいぐるみ	4	4
12 ゴルフ		2	3	パーマ	1	1				小さい手他	3	6
13 釣り・他		2	3	花	3	3				小さな靴下	2	5
14 野球・他		4	3							泣き声	4	2
15 テレビ		4	3							小さな服	7	1
16										タオル	1	3

avoidant												
Ss	おとうさん	高群	低群	おかあさん	高群	低群	きょうだい	高群	低群	あかちゃん	高群	低群
1 車		16	14	エプロン	15	12	けんか	9	14	ミルク・乳	15	16
2 タバコ		14	15	洗濯・他	5	10	テレビ・他	7	6	おむつ・他	13	14
3 お酒		12	12	料理・炊事	9	11	TVゲーム他	7	5	哺乳びん	12	13
4 スーツ・他		3	9	掃除・他	2	8	部屋・他	5	4	ガラガラ	10	9
5 ネクタイ		4	9	台所・他	1	4	学校	1	7	おしゃぶり	10	11
6 新聞		6	5	車	6	5	服	7	2	よだれかけ	12	8
7 ビール		4	7	化粧・他	3	0	自転車	5	5	おもちゃ	11	8
8 メガネ		8	3	アイロン	3	3	おもちゃ	6	2	ベビーベッド	5	11
9 仕事		7	4	買い物・他	3	2	電話・他	5	3	ベビーカー	4	10
10 ひげ・他		5	5	包丁	3	3	お下がり	2	3	乳母車	1	7
11 会社		2	5	財布	2	2	CD	3	2	ぬいぐるみ	3	5
12 ゴルフ		2	3	パーマ	1	1				小さい手他	3	6
13 釣り・他		1	2	花	3	1				小さな靴下	4	3
14 野球・他		3	4							泣き声	4	2
15 テレビ		5	2							小さな服	6	1
16										タオル	1	3

ambivalent												
Ss	おとうさん	高群	低群	おかあさん	高群	低群	きょうだい	高群	低群	あかちゃん	高群	低群
1 車		15	15	エプロン	12	15	けんか	8	15	ミルク・乳	13	18
2 タバコ		15	14	洗濯・他	6	9	テレビ・他	7	6	おむつ・他	14	13
3 お酒		10	14	料理・炊事	8	12	TVゲーム他	5	3	哺乳びん	16	9
4 スーツ・他		7	5	掃除・他	6	4	部屋・他	6	3	ガラガラ	10	10
5 ネクタイ		6	7	台所・他	4	1	学校	3	5	おしゃぶり	12	9
6 新聞		5	6	車	7	4	服	6	3	よだれかけ	12	8
7 ビール		4	7	化粧・他	2	1	自転車	4	6	おもちゃ	10	9
8 メガネ		6	5	アイロン	2	4	おもちゃ	4	4	ベビーベッド	9	7
9 仕事		6	5	買い物・他	3	2	電話・他	4	4	ベビーカー	8	6
10 ひげ・他		4	6	包丁	3	3	お下がり	3	2	乳母車	4	4
11 会社		3	4	財布	2	2	CD	3	2	ぬいぐるみ	3	5
12 ゴルフ		0	5	パーマ	1	1				小さい手他	5	4
13 釣り・他		3	0	花	2	2				小さな靴下	2	5
14 野球・他		4	3							泣き声	3	3
15 テレビ		3	4							小さな服	5	3
16										タオル	1	3